

## 第十三期第3回大田区清掃・リサイクル協議会 議事録要旨

【開催日時】 令和8年1月27日（火） 午前10時00分～12時00分

【会場】 消費者生活センター2階 大集会室

【出席委員】 15名

まえぞの や す こ 前 蘭 耶 須 子	公募区民
ふかざわ ふ み こ 深 澤 文 子	公募区民
のぐち た か し 野 口 多 加 志	大田区自治会連合会（大森東地区、大森地域）
ほりえ と し お 堀 江 敏 雄	大田区自治会連合会（鶴の木地区、調布地域）
こやま き み こ 小 山 君 子	大田区自治会連合会（蒲田東地区、蒲田地域）
むらかわ し げ は る 村 川 茂 治	大田区消費者団体連絡協議会
いちかわ ま ゆ み 市 川 真 弓	大田区生活協同組合連絡会
にし よ し お 西 義 雄	大田区リサイクル事業協同組合
かさい さ と し 笠 井 聡 志	東京壘容器協同組合第2支部
いわした み つ ひ ろ 岩 下 充 博	大田区商店街連合会
さ さ き か ず ひ ろ 佐 々 木 一 博	（一社）大田工業連合会
あいかわ ひ で あ き 相 川 英 昭	大岡山北口商店街振興組合
たかやま ゆ う い ち 高 山 雄 一	区議会 まちづくり環境委員会
つばき し ん い ち 椿 し ん い ち	区議会 まちづくり環境委員会
かなや よ う へ い 金 谷 洋 平	大田区立小学校PTA連絡協議会

（以上、敬称略）

【欠席委員】 2名

【傍聴者】 1名

【区側出席者】

資源環境部長、資源環境部副参事、環境政策課長、大森清掃事務所長、蒲田清掃事

務所長、ごみ減量推進課事業推進担当係長

【事務局】

ごみ減量推進課長、ごみ減量推進課事業推進担当

【次第】

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 大田区一般廃棄物処理基本計画の重点施策について
- 3 報告
  - (1) 年未年始のごみと資源の収集状況について
  - (2) 災害により発生したごみについて (9/11大田区豪雨)
  - (3) 立体型防鳥ネットの試行について
  - (4) 環境保全に関する啓発事業報告について
  - (5) 運行管理システム DXaward2025 優秀賞受賞について
- 4 その他
- 5 閉会

《資料》

- 資料1 大田区一般廃棄物処理基本計画の重点施策について
- 資料2 令和7年度年未年始 ごみ・資源の収集状況
- 資料3 令和7年9月11日大田区豪雨により発生したごみについて
- 資料4 立体型防鳥ネットの試行について
- 資料5 環境保全に関する啓発事業報告
- 資料6 資源プラスチック回収事業における運行管理システムの導入による清掃DX

《その他配布物》

- 食品ロス削減啓発ジップロック
- プラスチックの出し方 (多言語対応版)

## 議事要旨

<b>1 開会</b>
<b>【ごみ減量推進課長】</b> 配布資料の確認及び欠席委員の連絡
<b>【会長】</b> 開会の挨拶
<b>【資源環境部長】</b> 部長挨拶
<b>2 議事</b>
<b>【ごみ減量推進課長】</b> 資料1に沿って説明をさせていただきます。 1枚目に記載してある、策定中の大田区一般廃棄物処理基本計画のうち重点施策と素案で位置付けている8項目である。 上から順番に「1 雑紙の回収の強化」、「2 プラスチックの分別回収の強化」、「3 食品ロスの削減」、「4 自然災害への対応」、「5 清掃事業データの見える化」、「6 外国人向け広報の強化」、「7 手続きのオンライン化の推進」、「8 デジタルを活用した収集体制の整備」となっている。 区民にとって身近な1、2、3、6について説明をさせていただきます。 1 雑がみの回収の強化について 令和5年度の組成分析調査のうち、分別不適物が約3割あるうち、約15%程度紙類が含まれている。これらを資源として取り除くことが出来ればごみの量を大幅に削減できるため、重点事業として強化したい。 他の自治体事例の紹介 青梅市、昭島市 『雑がみ回収袋』 浜松市、岐阜市 『雑がみ大辞典』 約100種類の紙類の分別方法が掲載。 川崎市 ミックスペーパーとして、汚れた紙・においの強い紙、資源集団回収の対象物等以外のすべての紙類を回収可能。  (机上にリサイクル可能な雑紙とリサイクルできない紙を並べている旨案内。)  大田区での雑がみ回収対象品と回収対象外品を机上に置いている。粘着性のもの、圧着はがき、レシート、カーボン紙、紙コップ・カップ麺のふたなど表面がコーティングされているようなものは大田区では回収対象外（可燃ごみ）となっているため、

それをわかりやすく伝えていくのが今後の課題。

## 2 プラスチック分別回収の強化

令和7年度4月から大田区全域で回収を開始した。月別回収量は4月が349トン、以降右肩上がりとなり12月で449トンとなっている。プラスチック回収量メーターは、毎月の清掃日より大田区HPで掲載している。地域ごとのプラスチック回収量は大森が1,213トン、調布が1,099トン、蒲田が1,405トンとなっている。分別協力率は高い順に調布が26.44%、大森が22.53%、蒲田21.60%の順となっている。地区別広報の参考にしたい。

## 3 大田区の食品ロスの取組み

令和5年度の組成分析調査のうち、可燃ごみの中で生ごみは27.8%出ている、うち食べられるのに捨てられてしまっているものが10.4%ある。可燃ごみの中から減らしていくことが可能と考え、重要施策として進めていく。

食ロスとは、食べられるのに捨てられてしまった食品のことである。日本全体で1年間に464万トン。国民1人1日あたり102グラム（おにぎり約1個分）が捨てられている。家庭系が233万トン、事業系が231万トンで約5割ずつの割合となっている。食品ロス削減の考え方として、「発生抑制」、「有効活用」、「再生利用（飼料化等）」がある。

次に大田区の実践を紹介する。食ロス削減月間キャンペーン（10月）として本庁舎1階の展示スペースで普及啓発を行った。普及啓発ツールとして、佐伯栄養専門学校との連携し、食品ロス削減レシピの開発、食品ロス削減実践講座の動画をホームページに掲載、食品ロス削減啓発ジップロックをイベント等で配付した。食品ロス削減に関する普及啓発業務としては、小中学校での出前授業、イベント出展、イトーヨーカドーの店舗の中で普及啓発の展示を行った。「もったいない大作戦」という啓発冊子も作成している。その他の取組みとして、「大田区食べきり応援団」として小売店、飲食店に登録してもらい、小盛、ばら売り、量り売りなど食品ロスに貢献している店舗に登録してもらっている。フードドライブは、家庭でまだ食べられるのに捨てられてしまう食品を本庁舎、特別出張所に持ってきてもらい、回収を行っている。今年度は2回実施した。1回目が約200キログラム、2回目が約280キログラム。地域の福祉団体や施設へ寄付を行った。また、フードシェアリングサービスの支援も行っている。「Kuradashi（クラダシ）」という、食べられるのに捨てられてしまう商品をインターネット上で安く購入できるアプリは、その売り上げの一部を寄付している。「TABETE（タベテ）」という、店舗で閉店までに売り切れない商品を近くの住まいの方に購入いただけるアプリもある。この二つのサービスは大田区における食品

ロス削減に向けた連携協定を結び、ホームページ等で周知を行っている。次に未利用食品の有効活用に関する支援事業である。区内事業者から出される不要となった食料品や防災備蓄物品を提供いただいて、社会福祉協議会等と連携して区を仲介して活用していく取組みである。

#### 4 外国人向け広報の強化

プラ分別回収が令和7年4月から始まったことを受け、15言語に対応したアプリを活用し、QRを読み込むことでチラシの内容が翻訳されて閲覧いただける取組み。

チラシを清掃事務所や出張所で広く周知。紙での印刷と比べて費用削減効果もある。

#### 質疑応答

##### 【会長】

1つ目の雑紙について何か意見はあるか。

##### 【委員】

雑紙の意識啓発を進めていけるようお願いしたい。

##### 【ごみ減量推進課長】

ご認識のとおり、意識啓発を進めていくことが主な取り組みになってくる。日常生活で意識せずにごみとして捨ててしまっていることを「資源化できる」という理解につなげ、更に行動変容につなげていくことが必要な取り組みである。

##### 【委員】

雑がみは資源の日に回収するのか。

##### 【ごみ減量推進課長】

ご認識のとおり、資源の日に出していただきたい。

##### 【委員】

普及啓発の方法はどのようなことを考えているか

##### 【ごみ減量推進課長】

区としては区報、清掃だより、ホームページ、スマートフォンでも見られるような取組み、子供向けの環境学習に組み込むなどである。

**【委員】**

視覚と聴覚を使った方法が効果的であると思う。今後ともお願いしたい。

**【ごみ減量推進課長】**

地域ごとであれば、地域力推進地区委員会などの会議体、町会長や地域の関係団体なども通じて普及啓発に努めて参りたい。

**【委員】**

新聞や雑誌は資源で出しているが、雑がみについては知らなかったため、反省して自所属の団体の中でも話をさせてもらった。スマートフォンの広報もいいが、例えば紙芝居をつくって、子供たちに啓発活動をしてもいいのではないか。

**【ごみ減量推進課】**

紙芝居もひとつの方法であるが、子どもたちにいかにわかってもらうかは大事だと思う。学校の先生方にご助言をいただきながら、子供たちにわかりやすい広報を行っていきたい。

**【委員】**

収集された資源の流れは大田区ではどうなっているか。

**【ごみ減量推進課】**

集積所に出していただいた後、資源回収車で回収し、雑がみで言えば、古紙問屋に搬入してそちらで資源化というルートである。

**【委員】**

本日、自宅が資源の回収日で雑がみも出した。委員の中でも知らないという発言があったように、区民はさらに浸透していないと思う。今までもやっているが、もっとPRするという意味で、例えば袋みみたいなものでこれに入れて出しましょう、これは雑がみですよ、といった目に見えてわかるものを、ホームページとか会合のときに渡されたりすると、改めて認識してもらえたりするのでよいと思う。いずれにしてももっと周知を考えていく必要がある。

また、手紙などで宛名があると個人情報的なものがあるが、シュレッダーはごみになるか。

**【ごみ減量推進課長】**

可燃ごみの扱いである。問屋では現状シュレッダーの資源化は難しいと回答をいた

だいている。

**【委員】**

昔雑誌の「誌」は言編、製紙会社に納品のときは最近雑「紙」と書く。ボリュームとしては雑がみの方が多い。本になっているものはボリュームで3割くらい。重量で5割いくかどうか。あとはチラシやお菓子の箱などの雑がみである。現場に出ると資源回収で雑紙を集めているのがわかる。シュレッダーという項目があつて自社でも月20トンくらい出荷している。

**【ごみ減量推進課長】**

全国一律にシュレッダーが資源化されていないというのは違うと思う。どういう自治体がどういう仕組みで資源化しているかというのは引き続き調べていきたい。

**【委員】**

紙は雨が降っているときの出し方に迷う。考えうる方法として、①出さない②ビニールに入れて出す③そのまま出すとあるが、区としてはどのように考えているか。

**【ごみ減量推進課長】**

濡れても資源化できるため、そのまま出してもらってよい。

**【委員】**

袋に入れなくてもいいとどこかで周知してほしい。

**【委員】**

選挙ポスターなどのコーティングしている紙はどうしたらよいか。

**【ごみ減量推進課長】**

コーティングされているものはリサイクル出来ない扱いとなる。家庭系であれば可燃ごみで、事業系であれば事業者回収してもらうこととなる。

**【会長】**

二つ目のプラスチック分別回収の強化についてはいかがか。

**【委員】**

興味深いのが、地域別で調布地区の分別協力率が26.44%で他より高くなっていることである。調布地区の意識が高いのか、普及啓発が浸透しているのか、ということ

を感じた。全体でどのように上げていくかが大事だと思う。

**【ごみ減量推進課長】**

地区別の割合について、住んでいる人の世帯構成が違うことによると思っている。特に蒲田は一人暮らしが多く、比較的分別の知識がない可能性もある。その分析については、アンケートなどでとったうえで、一人暮らしの若者を中心に広報していくなどの底上げは、今後考えていく必要があると感じたところである。

**【委員】**

きれいに洗えれば出せるが、どの程度やってよいか。あまり洗いすぎると水を使い過ぎて、費用対効果に影響してくると思う。そこをはっきりと広報してもらいたい。

**【ごみ減量推進課長】**

今ご発言いただいた問い合わせは、区民から多く寄せられる内容である。区報・ホームページ・動画で2、3回さっとすすいで汚れがおちる程度でよいと伝えているが、一人ひとりにはまだ伝わり切っていないところがある。引き続き広報に力を入れていく。

**【委員】**

プラごみの洗い方の話だが、容器を洗った時に出た水を使って野菜を洗うように工夫して行っている。

**【ごみ減量推進課長】**

自身でも水を流してしまっているため、非常にいいヒントをいただいたと思う。

**【委員】**

プラスチック回収開始当時は、みな積極的に出されていた気がするが、最近は出ていないと感じる。全体量としては上がっているようであるが、実際どうか。

**【ごみ減量推進課長】**

量としては増傾向にあり、集積所でも比較的全区域を見ると出しているのと認識しているが、個別の集積所を見るとそういった箇所もあるかもしれない。1年経って浸透していく地域とそうでない地域とで分かれてはくると思う。エリアの特性をつかんだ積極的な広報なども行って参りたい。

**【委員】**

2、3回すすげばいいというアナウンスがあったが、都が下水道局を管轄していて、今度は下水の内側に付着し、亀裂とか漏れの原因となるということがある。一旦紙で拭いてからざっと洗うというのを勧めて欲しいと言っていた。

**【ごみ減量推進課長】**

そのような意見を初めて伺ったので、区民のみなさまにどれだけ手間をかけてもらえるのかとのバランスもあると思うので、調べさせていただきたいと思う。

**【会長】**

3つ目の食品ロスについては、いかがか。

**【委員】**

外食では66%も廃棄になっていると、昔聞いた。事業系と家庭系で半々の割合と聞いて更にショックを受けた。生ごみはディスポーザーを使っているが、そのごみはどうになってしまうのか仕組みを教えて欲しい。

**【ごみ減量推進課長】**

集合住宅ごとに設置され、下に槽として溜まる部分があり、化学処理を行った上で下水道に流れていくという仕組みかと思う。

**【委員】**

外食に行く際は、持ち帰り用のパックや袋があり、利用している。家庭への啓発はどのようにしているのか。また、小中学校の給食は持ち帰りできるのか。

**【ごみ減量推進課長】**

ご紹介しているような食品ロスレシピの啓発、冷蔵庫の整理や調理で気をつける点の紹介などを区のホームページで動画を掲載している。他にも区報等のツールを使って啓発している。学校給食はおそらく持ち帰りは実施していない。残ったものについては、食品リサイクルの工場で飼料化・リサイクルをしている。

**【委員】**

賞味期限を見直すきっかけとなる啓発があるとよいと思うので、お願いしたい。

**【ごみ減量推進課長】**

先日のバス見学会の中でも話に出たが、賞味期限と消費期限についても広く伝えて

いきたい。冷蔵庫の中身が廃棄されてしまうということが非常に多く、袋が未開封のまま廃棄されているというのが、多いとわかっている。広報の際には力を入れて参りたい。

**【委員】**

家庭系の食品ロスの内訳がわかれば教えていただきたい。

**【ごみ減量推進課長】**

生ごみの内訳としては、食品ロスと調理くずがある。食品ロスが袋ごと捨てられたり、食べ残しされているもの、調理くずが調理の過程で出てしまうものである。

食品ロスが生ごみに占める割合としては、37.4%である。組成分析調査の結果から、生ごみが可燃ごみに占める割合として27.8%で、そのうち食品ロスが10.4%、残り17.4%が調理くずという内訳になっている。食品ロス10.4%の内訳としては、直接廃棄（袋ごと捨てられているもの）が5.7%、食べ残しが4.7%、調理くずとして出されたものは、可食が2.2%で非可食が15.2%で合計17.4%という内訳になっている。

**【委員】**

内訳についてよくわかった。無駄なく、必要な分だけ買って消費するということを根気強く啓発していくしかないと思った。

**【委員】**

日本の食料自給率は32%であり、残りを輸入しているという中でこれだけの食品ロスが発生しているのが問題である。大田区でも年間1万2千トンの食品ロスが発生している。一方、相対的貧困にある子供が9人に1人の割合でいる。

大田区でも未利用食品の有効利用やフードドライブにも取り組んでもらっている。3回目のフードドライブの様子を教えていただきたい。

**【ごみ減量推進課長】**

現在、集計中と聞いている。特に少なかったという報告等は現時点で受けていない。

**【委員】**

フードドライブを区民に身近な出張所でやっているというところをもっとアピールしてほしい。子供たちにも環境意識を高めるということをやっていただきたい。

**【ごみ減量推進課長】**

出張所は地域の方に身近な施設であるので、回収をより強化する余地はあると思う。地区委員会にも両清掃事務所長も参加しているため、フードドライブの前の機会に周知をする等の工夫をして参りたい。

**【委員】**

食べきり応援団として外食産業の食べ残しをなくそうという取組みを行っている。一昨年12月に厚労省から食べ残しの持ち帰りは消費者の自己責任というガイドラインが出された。これを受けて区の動きはいかがか。

**【ごみ減量推進課長】**

小売店・飲食店を中心に小盛メニューや量り売りをやっていたりしている店を登録させていただき、区としてPRをさせていただいている。個別の店舗との折衝についても継続していきたい。ガイドラインについて、区の保健所でも事業者への講習会等を実施している。もっと浸透していけば、店から出る食べ残しを持ち帰りいただくことで廃棄が少なくなることにつながる意義のある取組みであると思っているため、区としても前向きに取り組みたい。

**【委員】**

大田区のエンゲル係数はどうなっているか。

**【ごみ減量推進課長】**

調べさせていただく。

**【委員】**

事業系のごみについては、許可業者に有料で処分してもらっているが、変わらないか。

**【ごみ減量推進課長】**

事業系については、引き続き許可業者と契約いただき、処理していただきたい。

**【会長】**

4つ目の外国人向け広報の強化については、いかがか。

**【委員】**

何十か国語に翻訳するという取組みは素晴らしい。

**【委員】**

外国人の入居者に対して仲介業者から予め多言語のパンフレットを渡せるような仕組みを作ればよいのではないか。

**【ごみ減量推進課長】**

どのように外国人にコンタクトをとるかが重要であると考えている。引っ越しのタイミングを狙って不動産業者に協力いただき、渡すというのが効果的だと思う。現在、プラスチック分別回収のQRコードでやっているが、ごみの分け方・出し方パンフレットを多言語化すれば、分別して出していただけると思う。チラシ作成の効果を高められるような業者との連携を図ってまいりたい。

**【委員】**

集積所で橋の付近など個人宅以外のところは乱れやすい。しかし、経験上、外国人の違反者は少なかった。外国人に対しての告知も大事であるが、日本人の違反者もいるということも認識してほしい。

**【ごみ減量推進課長】**

日本人による不適正排出も多いということを改めて認識した。ご指摘のような箇所は荒れがちであり、近隣にチラシを配布するといった対応はしているが、なかなか改善が難しい。外国人だけではなく、若い方への周知なども考えて参りたい。

**【会長】**

活発な意見・助言に感謝申し上げます。次に移らせていただく。

### 3 報告

#### 【会長】

報告案件について、事務局から説明をお願いしたい。

#### 【ごみ減量推進課長】

資料2以降を使って報告をさせていただく。資料2は令和7年度年末年始のごみ収集の状況である。上側の表について、日付が横に並んでおり、2段に分かれて、左側に可燃不燃とある。可燃の部分をご覧くださいと特に年始の1月4日～6日が多く出されている。1月5日は平常の月曜日と比べ175%の排出があった。例年と同様の排出であった。1月4日については、日曜日収集を実施した。水曜日と土曜日の可燃ごみ収集地区が、1月4日の収集を行わないと10日間可燃ごみ収集されないという状況のため、特例で日曜日に収集を実施し、639トンの収集であった。

続いて資源の収集状況についてである。左側の縦に資源の種類、上段に日付が並んでおり、右側に合計、割合などが記載してある。雑誌雑がみ一番右側の列をご覧くださいと、年末年始は平常と比べ171%と多く出されている状況である。びんについても、184%と平常より非常に多く出されている。年末年始に大勢で集まる場面があったり、普段缶で飲むビールが大びんになったりしたということが推察される。

続いてプラスチックである。年末年始多く出されており、1月の7日～9日については、200%を超える通常の倍以上が出された。年末年始期間で1回分の収集日がなく、2週分のプラスチックが出たことによるものと考えられる。

次に資料3について、令和7年9月11日に大田区で初めて記録的短時間大雨情報が発表され、総雨量120ミリ、時間最大68ミリという非常に強い雨が降った。これに伴い上池台地域を中心とした非常に大規模な浸水被害等が発生した。こちら9月26日時点ではあるが、住家の被害件数は、床上含めて578件、事業所等の被害を含めると868件に達している。

区では臨時の態勢を組み、ごみの収集に尽力した。下の表に取組みをまとめている。翌日の12日に態勢を構築、13日（土）～15日（月）の3連休で非常に多くのごみが出されるだろうと予測し、態勢を強化してごみの収集を行った。可燃・粗大で収集量が多かった。

こちら前方に写真を写している。ごみは集積所や、粗大ごみ置き場に出していただいている。雨の被害に伴うごみは、公道上に置かれている状況である。これについては、収集の車を増やして対応を行った。次から次にどんどん道路に出されるという状況であった。また公園等につきましても昨日までなかったごみが、どんどん出され

て、次の日にはもう山盛りになっている。体制強化してごみの収集に努めた。

3連休明けの9月16日以降も体制の強化を継続して回収を進めた。一番下に総収集量ということで表の下に記載しているが、可燃ごみが37トン余、不燃ごみが1.6トン余、粗大ごみで40トン余、合計約80トンの災害廃棄物を区として収集した。

続いて、資料の4立体型防鳥用ネットの試行についてである。今現在カラスを中心とした鳥獣被害の対策として、青色の防鳥ネットの貸し出しをしている。

こちら基本的には使っていただきたいものであるが、これではなかなか防ぎきれないようなカラス被害について、立体型の防鳥用ネットを試行している状況である。立体型でふたがついているので簡単にはくちばしでつついて出せない。12月から試行として、区内数ヶ所で3月まで検証する。

管理面であるが、これは道路に出すものであるため、基本的にしまっていていただくということが前提になる。しっかり管理をしていただけるかということも検証の中で確認をさせていただいた上で、4月以降に順次その貸し出しをさせていただいてカラス被害の軽減に努めて参りたい。

続いて資料の5番、環境保全に関する啓発事業報告についてである。

「地球にやさしいまちづくりポスター」の展示について、本事業は毎年実施しているもので、区内小中学生が書いた環境啓発ポスターの入選作品を区内各地で展示をするという取組みである。今年度は、41校から464点の応募をいただき、入選作品34点を選出した。

大田コミュニティバス「たまちゃんバス」や、今年度は区内を走る清掃車の一部にポスターを貼付した。また、清掃工場での常設展示、蒲田駅西口のデジタルビジョン、グランデュオ3階東西通路、蒲田駅東口駅前工事フェンスにも、展示している。区報ホームページ等での展示またはイベントでの展示も行っている。

最後に資料6についてである。こちらの資源プラスチック回収事業における運行管理システムについては、第一回の会議で案内をした。こちらは令和5年の12月から導入したシステムであり、清掃車にタブレットを搭載し、デジタルで地図を確認して収集の効率化や最適化を図ることを目的として導入したものである。

導入の効果としては、作業の効率化、回収量の正確な把握、費用の削減、環境負荷の低減に繋がるものである。他にも撮った写真を情報共有することによって、区民の問い合わせに対しての適切な回答をすることができるといった効果がある。

人手不足・属人化については、地図をデジタル化することによってルート変更にも柔軟に対応することができる。日報についても、紙からデジタルに移行することで手間が削減され、ペーパーレスにも寄与しているといった効果がある。

次に GPS 上で収集車が今どこを走っているということも確認できるため、それが可視化されて、遅延状況の把握や応援が可能かなども確認でき、効率化につなげることができる。適切な業務時間の確保もでき、ポップアップでそのタブレットで、飛び出し注意の箇所などが表示されるため、なれない運転手や作業員でも標準化された作業ができるものである。

台数の削減については、当初 25 台程度必要とされていたところが、このシステムを入れることによって、車両 4 台分約 8,000 万円の費用を削減できる。

次は、区民サービスの向上ということで、集積所で回収が終わったかどうか、改修の目安の時間を伝えることなどが可能になる。他にも写真を撮ってその写真を見ながら、問い合わせを受けた職員と作業員と区民で共通の認識をもって問い合わせに回答できる。

最後になるが、本システムの取組みが Tokyo 区市町村 DXaward2025 の業務改善部門で優秀賞を受賞した。業務改善部門では、全東京都自治体 31 の自治体からエントリーがあり、その中で本線に進めたのが 11 の取り組みであり、2 番目の賞ということで優秀賞をいただいた。

#### 質疑応答

##### 【会長】

ただいまの報告について案件ごとに、質問や意見交換等を行いたいと思うが、いかがか。始めに報告案件（1）年末年始の収集状況について、お願いしたい。

##### 【委員】

私も実は 1 月 4 日にごみを出させていただいた者である。今後も継続していただければありがたいと思うが、これは初めての試みなのか、あるいは、たまたま曜日のめぐり合わせで、今回 4 日が日曜日だったということで、このスケジュールになったのか、そこをちょっと教えていただきたい。

##### 【ごみ減量推進課長】

曜日のめぐり合わせである。昨年も火曜日と木曜日の地域であったが、収集の間隔が 10 日間も空いてしまうため、中抜きという趣旨も踏まえて日曜日に収集をさせていただいたものである。

##### 【委員】

4 日で 90 台という多くの台数が、走ってくれたということで本当ありがたいと思う。また、今後もお対応いただければとても区民としては助かると思うので引き続きよろしくお願いしたい。

**【委員】**

区民サービスがすごくいいなと思っている。しかし、職員や協力会社の人たちに、かなり負荷がかかっていると思われる。特に集中豪雨のあった9月は大変な思いをされ、安全や衛生問題がすごく気になっているがいかがか。

**【ごみ減量推進課長】**

清掃事業については、区だけではできないもので、委託事業者の皆様の協力あってこそだと思っている。基本的には区で、一般廃棄物を収集するというのを法律で定めているため、最終的には区の責任で行うが、その一部を担っていただいている事業者についても、やはりその労働環境については確保していただいて、事業を行っていただけるように、例えば打ち合わせや意見交換の場で、確認等させていただきたい。

**【委員】**

12月の最終日に不正にごみを出されている箇所はあったか。

**【蒲田清掃事務所長】**

ごみ収集後に後出しで出されている集積所が複数あった。極力年末年始残さないような取り組みを行ったところであるが、取り残しとなった部分は、若干はあったのが実態である。

**【会長】**

それでは報告案件（2）災害により発生したごみについては、いかがか。

**【会長】**

意見がないため、次に進ませていただく。報告案件（3）立体型防鳥ネットの試行については、いかがか。

**【委員】**

この取り組みはすごくよいと思う。しかし、ごみの量がすごく多い場合に上があいた状態にならないか。

**【ごみ減量推進課長】**

現時点で想定している運用としては、青いネットとの併用で考えている。青いネットで溢れている部分については、立体型ネットにいられていただき、青いネットは下を包んでカラス対策としていただく。

**【会長】**

次に報告案件（４）の環境保全に関する啓発事業報告については、いかがか。

**【会長】**

意見がないため、次に進ませていただく。最後に報告案件（５）の運行管理システム、DX2025award 優秀賞受賞については、いかがか。

**【委員】**

車の台数を一応プラスチックで 21 台に減らしたということであるが、すべて満タンになっているか。

**【ごみ減量推進課長】**

車載容量は満杯にはなっていない。

**【委員】**

そうすると回る回数が結構増えるのではないか。もう少し減らしてもいいのかなどは感じているが、回る方も大変だと思う。

**【ごみ減量推進課長】**

お見込みのとおりである。1 台当たりの回る距離・回数については、台数を減らした分増えるということになる。

#### 4 その他

**【会長】**

それでは、本日予定していた内容は以上である。その他、皆様から全体を通じてのご意見や連絡事項等はいかがか。

**【委員】**

重点施策の中で「清掃事業データの見える化」があったと思う。プラスチック分別回収の強化とか、例えば区民に対して啓発という意味では、例えばプラスチックごみを回収すると、その分 CO2 が削減するとか、サーマルリサイクルの観点でこれだけ発電できるとか、あと何かマイクロプラスチックなど何か環境的な被害が減るみたいなことが見えると、何か区民としても協力しようという傾向にもなるのかなと思った。そういうことをいろいろな数値とつないで、実はこういうことにもこのごみ削減の効果が出るといったことを、繋がりを見せていただけたらいいのではないか。

**【ごみ減量推進課長】**

非常に重要な視点だと思う。ただごみ量を出すだけではなく、それがどういうところにつながっているか示すことで、例えば環境分野に興味を持っている方にもより興味を持っていただけたらと思う。是非検討したい。

**【委員】**

最近小池都知事がごみの有料化っていうのを言っているが、区の見解はいかがか。

**【ごみ減量推進課長】**

報道等で小池都知事から、有料化に関する発言があった。有料化については、約1,700自治体あるが、6割以上の自治体で導入している。有料化することで関心が高まりごみ量が減る効果があると思っている。ただやはり、人口1千万弱の23区での導入となると、23区一斉の導入が前提になると思う。区境の問題もあるが、有料袋できちんと排出されているかという点も確認しなければならない。

集積所回収を続けた場合に、有料袋とそうでない袋で出された場合にどちらで出されたかわからなくなってしまうため、戸別収集が必要なのではないかという議論もでてくる。お宅の前にごみを出すというシステム、これをやり始めると人と車を確保しなければならない。他の自治体で1.3倍、1.4倍といわれる人と車が必要となってくるため、人手不足のこの時代に確保できるのかといった課題もある。ごみ減量という方向性では進めたいが、それを導入するにあたってのハードルは高いというのが現時点の区の認識である。

**【資源環境部長】**

今家庭ごみ有料化の話が最後あったが、詳細は課長から述べた通りである。東京は、特に23区は3つの自治体が絡むごみ処理をしている。集めて運ぶのが区、工場で燃やすのが清掃一部事務組合、出た灰を埋めるのが東京都という3つの自治体が絡んでいるという大変複雑なシステムである。知事の意見の如何によらず、どのようにごみを減量して、資源化に努めていくかは、まさに区に責務と権限がある。こういった場で皆様方からご意見をいただき、しっかりと大田区だけでなく、23区で進めていきたいと思っている。

また、時間があれば、本会議後に前方に展示している雑紙や立体型防鳥ネット、ポスター作品等を是非ご覧いただきたい。

## 5 閉会

### 【会長】

本会議の進行がスムーズにできたことに、心からお礼申し上げたい。

これで、閉会とさせていただきます。事務局にお戻りする。

### 【ごみ減量推進課長】

事務連絡をさせていただく。本日は今年度最後の回である。任期は2年としているため、来年度もよろしくお願ひ申し上げます。

2年目最初の第4回の会議については、現在7月22日、または24日の午後に開催を予定している。詳細については開催日が近づいたら、改めて案内をさせていただきます。

本日2時間の長きにわたり、多様なご意見をいただき感謝申し上げます。いただいたご意見を踏まえ、清掃事業を進めて参りたい。